

## 平成29年度大韓民国国立公園管理公団北漢山生態探訪研修院との交流事業について

島田和昭（日本プロガイド協会）

この度、韓国への訪問の機会を下さいました事、日本スポーツ振興センター並び国立登山研修所の関係各位、また韓国・北漢山研修院の関係各位に厚く御礼申し上げます。日本の山岳地域・観光地に来訪される韓国人がますます増加に対する状況において、私たち講師、救助隊員、山岳ガイドはその事情を韓国にて実際に知り学ぶ事が出来た、大変有意義でありました。以下テーマに添ってご報告します。

### 日韓関係

一部の反日心情や北朝鮮問題のある中での訪朝で危惧していた不安は、初日のインチョン空港での環境や武漢山研修院の方々との交流ですぐに解消された。政権の正当性であろう事情はともかくとして、私たちが関わった方々は日本の登山、観光地、人に大変興味を持っておられ、お互いのそれらの情報交換を話し合うことができた。しかし韓国独立の歴史や北朝鮮との休戦環境という背景があり、彼らと人間関係を構築する上で「彼らの考え方を抑えつける」ような印象を与えないように事に気を使う必要はあったと感じた。

### 国立公園・登山学校・山岳博物館

韓国での国立公園は22箇所（山岳系の国立公園が18箇所、海上系の国立公園が3箇所、史跡系の国立公園が1箇所）選定されており今年で50周年を迎えている（日本の国立公園は33箇所）。今回のベースとなった北漢山国立公園（プッカサン）がソウル都心にあり重要な国立公園である事を認識する事が出来た。日本でいうならば大阪や神戸に対する瀬戸内海国立公園（六甲山）で景観は小川山や瑞牆山という環境だろうか。北漢山国立公園を代表する白雲台（ペグンデ836m）・仁寿峰（インスボン810m）・万景台（マンギョンデ800m）・道峰山（700m）への登山は大変さかんで環境保全のため、また登山者の遭難防止や山火事の防止のためにも国立公園事務所が重要な役割を果たしている。北漢山研修院（登山学校）は日本でいう国立登山研修所と国立青少年自然の家が合体したような施設の大きさやシステムを備えていた。取組は、登山技術指導、消防隊救助訓練、クライミング教室、生態教室、外来植物除去、青少年野外教育プログラム、などと多岐にわたりその教育アイデアもたいへん豊富であった。雪岳山国立公園（ソラクサン）は、ソクチョ郊外にあり年間



日韓交流事業（ソクチョにて）



北漢山研修院



ソクチョの建設中の登山学校

## 7. その他

360万人ともいわれる観光登山地、そして重要な生態系を持つ地域のため、充実した救助隊事務所、山岳博物館（2014年開館）、公園管理所を見学させていただき人気の高さを実感する事が出来た。近年に開館した山岳博物館（林野庁）の隣には数十億の建設費を投じて来年夏に登山学校（環境庁）が開館される予定だ。韓国での登山に対する姿勢がたいへん期待されている明らかな証拠であると感じる事が出来た。

### 登山事情

韓国の山林地域は日本と同じ国土の70%を占めている。山が身近であることや1000m前後の山が多く登山をレジャーとして楽しみやすい環境のようだ。特にソウルから近い北漢山国立公園の登山は標高800m前後で往復3-4時間のコースが多い事も、半日は登山、半日はマッコリに焼酎といった感じだろうか、休日を山で楽しみやすい環境のようだ。それを証拠に北漢山研修院のある代表的な登山口では、数十件連なる登山専門店や登山メーカー直営店、食堂、レストラン、居酒屋、バーなど多くあり休日は大賑わいであった。一般登山道は日韓での訴訟問題でも感じとれるように公園側は責務を果たすかのように登山者に対しての安全管理を徹底し整備された登山道であった。国内でいうならば関東の高尾山、関西の新神戸から摩耶山の登山道のように注意深く、

安全策が構築されていた。私たちは北漢山研修院から往復2時間30分の道峰山（ドボンサン）へ登山に行く機会があり良い体験ができた。登山道の要所には標識がなされ、山岳連盟事務所や山岳警備隊事務所もあり大変守られた環境であった。途中行きかう登山者の様子は、日本と同じように多くがローカットシューズに山ウェアと20-30ℓザックで軽装備であるが、また50ℓ程度のザックをきれいにパッキングし安定した歩きのクライマーや歩荷訓練をしている登山者も日本と同じように登っていた。頂上からの見晴らしは抜群で、例えるなら小川山のような花崗岩が連なる景観で、六甲山から大阪平野や神戸を見渡すような距離感が雰囲気であった。特記する事は全身が映る鏡が登山道中にあることだ。その鏡には、「あなたの登山の準備は大丈夫ですか？」と自問自答させるような安全対策を講じている事に感心した。雪岳山国立公園ではロープウェイで山岳景観を楽しめる観光スポットは人気のようだ。山岳環境としては韓国三番目の高峰の大青峰（デチョンボン 1708m）が聳えるように山は深く、岩は高く、冬は雪に閉ざされる韓国一の厳しい環境のようだ。経験を積んだ一般登山者はここで高みを目指し長期登山や雪山登山を行い、クライマーは岩壁と岩稜を使った三十数ピッチのマルチピッチクライミングや300mあると言われるアイスクライミングルートに挑戦して



左の鋭鋒がドウジョッポン



ハンピョンエーシルルウイハンキルでのクライミング





ドボンサンの登山の様子

いる。北漢山と同じくここでも携帯電話の電波は良好で事故の通報はほぼそれで行われている。日本の携帯GPSのようなものもあるようだが事故の多くは携帯を通じへりにて救助するケースが多い。雪山登山では数年前に雪崩で7名なくなる事故もあったようだが珍しいケースのようで、事故の多くは1、道迷い 2、クライマー事故 3、転落だと聞いた。国立公園での山岳スキーは禁止されているがその地域以外での山岳スキーはマイナーだが行われており、山岳救助隊では山スキー技術の習得を今後視野に入れている。私たちは、ロープウェイのある登山口からアプローチ30分でドウジョッポンの8pルート（ルート名：ハンピョンエーシルルウイハンキル）に北漢山研修員スタッフ5名と共に登った。小川山でいうなら烏帽子岩左岩稜を5.5～5.8グレードの8pにした感じで、花崗岩の岩質や植生などもそれとと

似ていて親しみやすいルートであった。ルート上の支点は最低限に抑えた数量でケミカルアンカーが打たれていた。またクライミングルートのスタート地点にはルート名とピッチグレードが刻まれたステンレス盤が親切にも張られていた。

### 日韓合同救助研修

これは残念ながら雷雨のため30分ほど視察するにとどまった。チロリアンブリッジから谷底の要救を救助するシステムはほぼ日本と同じであった。公園員、消防隊員、民間救助隊員の混成で行われていた。



### 動植物

ドボンサン登山の道中での植生は奥秩父や比良などと似ていた。ドウジョッポンでのクライミングの道中ではウスユキソウ、ツツジ、マタタビ、山椒なども見られ、国内の2000m前後で見られるような植生だ。韓国ではツキノワグマが生息しているものの野生ではなく人工的に特定の地域で保護している。日本のような熊の人的被害はない。蜂や蛇での被害はあるが、蜂での死者は年間2～3名と聞いた。ちなみにポイズンリムーバーの存在は北漢山研修員の方々は知らなかった。日本のように鹿の食害はきかないが猪の被害が多い。

### 登山の考え方・行動・知識・技術

クライミングにおいては、知識や技術に日韓大きな変わりがないと思われる。ただ危険に対する考え方や行動、講師という立場での基本の徹底においては危うさを感じた。それはチロリアンブリッジでの重要なアンカーのバックアップ、メインロープのバックアップ、救助隊員の位置関係に甘さがあった。クライミングにおいては、難度は別として確実に墜落死するような状況でのロープのたるみ、体へのロープの束ね方に基本の徹底がなく、本人が良くてもしっかり見てまねる後輩の者や講習生の基本の考え方が甘く伝わる事、つまり教育的な意識が欠けている事や、彼らの性分なのか強気な面が慎重な考え方を越えていると感じられた。懸垂下降でもフォールラインが危険とわかっていながらも作業を行っていた。知識や技術にさほどかわりがないと思うが、肝心な考え方の構築、客観的な視点、徹底した基本の動作においては甘さを感じる。

### 登山店事情

あれほどの登山専門店やメーカー直営店が経営さ

れていることに驚いた。扱っている商品数や在庫数も多く、それほどの需要があることを認識せざる得ない店の数だ。一部の国内の登山専門メーカーに話を聞くと日本の2倍の売り上げがあるらしい。韓国のアルテリアといえるアンナプルナの施設を見学したが、ここも世界で一番充実した施設であると聞いた。消防関係のほとんどはここで重要な訓練を行い装備を整えているようだ。

### 韓国の観光地

**ソウル市内** 登山店は日本より商品数多く見て選んで楽しい。大型スーパーの食材売り場は阪神百貨店よりお腹がいっぱいになる試食のオンパレードで感激。日本より野菜と肉は少し安い魚は高い印象。

**ソクチョ観光名所** 冬のソナタのロケ地や越前海岸のような海産物屋の多さは面白い。

**ヤングン北朝鮮軍事境界線** 最も強烈な印象的であった。休戦状態である事を認識した。

### 韓国フード

毎日恐縮するほど贅沢をさせていただきました。飽きることなくメニューを日々変えていただき、いずれも美味しく満腹の日々でした。

### 日韓交流事業 訪韓の成果と課題

短い6日間とはいえ最高の準備をしてくださった北漢山研修院の入念な準備で大変充実した視察となりました。これまでの日韓交流の成果が表れた証拠だと感じました。なによりも今後の交流事業に活かせる韓国登山事情をそれなりに把握できた事がなによりです。課題としては登山チームの救助合同研修や登山・クライミングの時間が増えればより今後の成果に繋げられるのではないかと感じました。

## 日韓交流事業 来日の過去の成果と課題

彼らの登山に対する意欲、技術を学ぼうとする意欲は強く感じます。日本で学ばれた事を自国で研修されている事やその結果として現われている技術的な面は所々見る事が出来ました。彼らが自国より複雑な山岳や気象条件の元で彼らの考え方や技術の向上に役立つ交流事業になる事を今後とも望みます。劔岳（源次郎尾根や長次郎谷）、立山（一般登山事情）、西穂高岳（難路登山事情）、上高地（登山基地）、雑穀谷（救助研修）など彼らの意欲に優先順位をつけ、当研修会事業とは別枠の日程を設けて行う事が望ましいと思います。また今回受けた大歓迎の熱い気持ちに応えられる準備を当方も万全にしなければならぬと思います。